

みどりのこだま



福島県会津農林事務所会津坂下農業普及所
(住所) 河沼郡会津坂下町大字見明字南原 881 (電話) 0242-83-2112
金山普及所
(住所) 大沼郡金山町大字川口字上町 656-1 (電話) 0241-54-2801

富田義明・みつ子御夫妻が福島県農業賞を受賞

—第 58 回福島県農業賞表彰式—



富田御夫妻（左右）と内堀知事（中央）

「第 58 回福島県農業賞表彰式」が平成 29 年 8 月 29 日、福島市の杉妻会館で開かれ、会津坂下農業普及所管内から、会津美里町の富田義明・みつ子御夫妻が受賞されました。

義明さんは、他産業に従事後、昭和 61 年に就農し、両親から農業経営を引き継ぎました。当初は、水稻中心の経営でしたが、農業所得の向上を目指して経営の見直しを決意し、昭和 62 年にきゅうりを導入し、みつ子さんも就農して二人三脚で農業を営んでこられました。

富田御夫妻は、雇用による規模拡大ではなく、夫婦 2 人の労働力を前提として、過重労働になるような無理な作業体系を避け、きゅうりが健全に育つ環境づくりを通して、安定的に良質なきゅうり生産が継続できる栽培方法を探求してきました。また、6 月～11 月の長期安定出荷体制を確立することによって、夫婦 2 人の労働力を最大限生かし、長期にわたって労働時間の平準化を図りながら、良質なきゅうりの高位安定生産と栽培管理作業の効率化を実践しています。

義明さんは、現在、JA 会津よつばみどり地区きゅうり部会長、更には JA 会津よつばきゅうり部会連絡協議会長として、きゅうり生産技術の研鑽と産地の発展に尽力されています。

富田御夫妻は、「自身が実践している安全・安心で、美味しいきゅうり作りを通して、何よりも消費者の健康を考え、そのために生産者である家族の健康や労務上の安全、環境への配慮等に真摯に取り組みながら農業生産していることを、消費者にしっかり伝えることにより、風評を払拭していきたい。」と話して下さいました。

富田義明さん、みつ子さん、農業賞受賞、本当におめでとうございました。

こんにちは！ 今年から農業はじめました！

会津坂下農業普及所管内では新規就農者が増加しています。前号に引き続き、平成28年から29年に就農した将来を担うニューフェイスを紹介します。

氏名：小野 巧（会津坂下町）

経営品目：水稲、（予定：小麦、そば、柿）
ひとこと：経営技術と管理を習得して安定した経営を行い、地域の担い手になりたいです。



氏名：五十嵐 脩太郎（会津坂下町）

経営品目：水稲、（予定：ぶどう）
ひとこと：まだまだ経営として未熟なところが多いので、収量増加や管理品質の向上に力を向けていきたいです。



氏名：岩澤 正之（会津美里町）

経営内容：施設トマト、露地ナス等
ひとこと：今年初めて作った土地だったので苦労しました。有機農業による自立した経営を目指して日々努力しています。



氏名：佐藤 秀樹（会津美里町）

経営内容：水稲、リンゴ、柿
ひとこと：水稲の規模拡大を目指しています。早く技術を習得して、今以上にお客さんに美味しいと言ってもらえる米、リンゴ、柿を提供出来るようになりたいです。



氏名：石井 伴治（会津美里町）

経営内容：オウトウ、リンゴなど
ひとこと：まだ1年が経っていませんが、「果樹は本当に奥が深い」と実感しているところです。毎日が勉強だと思って取り組んでいます。



会津坂下農業普及所では、新規就農者を応援しています。

新しく農業を始めたい方、各種支援制度について知りたい方は、気軽に御相談ください。

GAP 取得の経緯やメリットを聞きました！

「ふくしま。GAP チャレンジ宣言」(平成 29 年 5 月)が行われ、福島県では、GAP 取得の支援に積極的に取り組んでいます。平成 29 年 3 月に JGAP 認証を取得した農業生産法人「株式会社米夢の郷」の佐々木忠次取締役圃場長(写真)に取得の経緯やメリットなどをお聞きしました。

取得に至った経緯は、東京オリンピック・パラリンピックに提供される食の原材料供給で、GAP 取得が要件であったことがきっかけとのことでした。そこで、会社一丸となって GAP に取り組もうという気運が高まり、県の補助事業を活用して JGAP の導入に至りました。

導入後は、設備・在庫管理の徹底で経営ロスの削減、作業効率の向上、労働環境の改善に繋がったといます。

佐々木氏は「取得に取り組んでから 4 ヶ月で認定を受けることができました。作業場が片付き、食の安全に対して職員が気をつけるようになりました。また、JGAP 取得で第三者機関から認可を受けることで、食の安全、環境の保全にさらに自信が持てるようになりました。」と強調されていました。



佐々木取締役圃場長

『絆』で拓く！ふくしま未来農業創出事業について

『絆』で拓く！ふくしま未来農業創出事業」は、過疎・中山間地域において営農組織等と企業との連携による農業の新たなビジネスモデルを実証し、安定雇用が可能となる先端モデル経営体を創出することを目的としています。管内で本事業を活用している 2 事例を紹介します。

① 桐の里産業株式会社(三島町)

平成 28 年度より本事業を活用する桐の里産業株式会社では、農機具メーカーとの連携によりエゴマ機械化大規模栽培体系を導入し、平成 29 度は 2.7ha の栽培に取り組みました(写真左)。また、IT 企業との連携により水田水位センサー等の ICT 技術を導入し、中山間地域での営農の効率化を実践しました。さらに、農産物の付加価値を上げていくために、地元で会津地鶏を飼育・処理している企業と協力し、エゴマ絞るかすの給餌による肉質向上と、鶏糞の堆肥利用による地域循環型農業の確立を実証しています。

② (有)グリーンファーム(昭和村)

(有)グリーンファームは、県内でも有数の大規模経営で水稻を中心に約 100ha 作付けしています。現在の課題は、効率的な管理作業によるコスト低減、きめ細かな管理作業による増収、積雪地帯での安定した通年雇用の実現です。そこで、平成 29 年 7 月から本事業を活用し、民間企業との連携により ICT やドローンなどを活用した農地管理システムや、リモートセンシングなどの水稻増収技術の導入に取り組んでいます(写真右)。また、自社生産農産物の 6 次産業化や機械類の社内整備体制構築による収益確保と雇用創出にも取り組んでいます。



半自動移植機によるエゴマ移植(三島町)



ドローンによる水稻リモートセンシング(昭和村)

奥会津エゴマセミナーを開催しました！

平成 29 年 12 月 15 日に、金山町開発センターで「奥会津エゴマセミナー」を開催しました（写真右）。

エゴマは、奥会津地域の重要な地域特産物ですが、生産に多くの労力を必要とすることから、作業の省力化がエゴマ生産振興の課題となっています。

セミナーではまず、郡山女子大学大学院の広井勝氏より「エゴマの機能性成分と効果的な利用方法について」と題して講演いただき、エゴマの有用性について理解を深めました。

また、県内外の取組事例をもとに、機械を活用

した省力的な栽培方法や小規模栽培者も安心してエゴマ栽培を継続できる体制づくりなどについて検討しました。奥会津地域を中心に多くの方に参加いただき、積極的な意見交換がされました。

本所では、今後も奥会津地域全体のエゴマ生産振興に向けた支援を、継続して実施していきます。



奥会津エゴマセミナーの様子

両沼農村青年クラブに入りませんか？

両沼農村青年クラブでは、現在、メンバーを募集しています。管内の若手農家と一緒に学び、話し、親睦を深めませんか。興味のある方は本所まで連絡をお願いします。



落花生を播種するクラブのメンバー

【両沼農村青年クラブとは・・・？】

本クラブは、河沼郡及び大沼郡内の若手農家のグループです。主にプロジェクト活動を通して、楽しく活動しています。

今年のプロジェク活動では、露地とハウスで落花生の生育がどう違うかを調査しました（写真左）。現在、メンバーは5人と少ないですが、少数精鋭で両沼地域の農業を盛り上げるために奮闘しています。

【ブログ紹介】 ブログで普及活動と地域の課題等について紹介しています。右の QR コードから是非アクセスしてください。

会津坂下農業普及所ブログ



(<http://aidubange.blog.jp/>)

かねやま普及所活動日誌 2！



(<http://blog.livedoor.jp/kaneyama2015/>)

【ホームページ紹介】 ホームページで管内の農業の概況や技術情報を掲載しています。

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36243a/bangehukyu-15.html>